申込状況を踏まえた定員設定について

１　保育施設の申込状況

（1）　保留児童の状況

近年、低年齢児（０歳児～２歳児）で保留児童が多く発生しています。

内訳では、特に１歳児の保留児童人数が多く、次いで２歳児、０歳児となっています。

クラス年齢	０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児
保留児童数(R3(2021).4.1) ※()内は R2(2020).4.1	56 (45)	131 (190)	62 (76)	15 (20)	9 (5)	3 (2)

（2）　クラス年齢の定員に空きが残った保育施設の数（４月入所一斉受付分の結果）

クラス年齢	０歳児	１歳児	２歳児	３歳児	４歳児	５歳児
空き施設数(R3(2021).4.1) ※()内は R2(2020).4.1	51 (41)	30 (10)	26 (7)	4 (7)	19 (12)	16 (13)

２　０歳児に空きが残る要因

●育児休業を２歳まで取得できること

育児休業を２歳まで取得できるようになりました。

（ただし、「１歳の誕生日の時点」と「１歳６か月の時点」で、保育施設に申し込み、「保留」となっていることが必要とされており、申込者の中には、「保留通知がほしいので申し込みます」という人が相当数いる状況（⇒育児休業制度のためにキャンセル増につながっている）です。）

こうした中で、０歳児の申込が増えなくなったことが要因の一つと考えられます。

※一方で、１歳児は引き続き多数の保留児童が発生しています。

●保育施設の整備

待機児童対策の取組として、全市区町村に「待機児童ゼロ」に向けた取組が求められております。このため、「保留児童」を一人でも少なくすることが必要となる中、１歳児の申込者数が多いことから、保育施設（特に小規模保育事業所）の整備を大規模に行ってまいりました。

それに付随し、０歳児の定員も整備により拡充されましたが、１歳児のように保育ニーズが高くない状況であることから、特に年度当初の定員に空きが目立つようになったと考えられます。

３　上記を踏まえた定員設定

（1）　１歳児と２歳児に特化した定員設定

年度当初（４月）の空きをできる限り少なくするため、０歳児の募集を減少（又は休止）し、１歳児・２歳児のみの募集を行うことが有力な選択肢と考えられます。保育士不足と言われる中、職員配置（**児童**と**保育従事者**の割合）も０歳児が**３：１**であるのに対し、１・２歳児は**６：１**です。

この対応について、市としては、認可定員の変更ではなく、「状況を踏まえた弾力的な運用」として行うことを想定しています。ただし、恒常的に変更する場合は「認可定員」の変更となり、認可・確認の変更手続が必要となります。

※年度当初に満員となることを確約するものではありません。

※０歳児の募集を減らして１歳児・２歳児の定員を増やす場合、事業所の間取り等により不可能な場合があります（不可能な例：０歳児と１歳児・２歳児の区画を運用にあわせて動かせないなど）。

※公定価格における取扱いに特例はありません。

⇒もし０歳児の募集を減少・休止したい場合、間取り等の確認をしますので、７月１６日までに保育入所課（原田）に御一報ください。

（2）　あえて０歳児の定員を残す

(1)のような対応ができる一方で、年度途中に入所を見込みやすいのは０歳児、という観点もあります。年度当初の空きをある程度許容できるのであれば、これも選択肢となります。

いずれにしても、各保育施設の運営形態や特色にあった定員設定が重要と考えております。ぜひ各施設でお考えいただき、(1)の場合は期日までの連絡をお願いします。